



矮性（わいせい）ネピアグラスは、一度定着すると数年間利用可能で、草丈が2層程度の夏の牧草です。ソルガムと比べる

冬季移植法による翌春の株の定着率および栽植密度

試験地	株の定着率 (%)	栽植密度 (株/m ²)
島原(畜産研究部門)	93.5	3.4
諫早(現地農家圃場)	96.3	2.4
五島(現地農家圃場)	82.4	2.0

矮性ネピアグラス植え付け 簡易な草地造成法で 65%の時間削減効果

と、乾物収量は同等ですが、葉の割合が多く、栄養価も高く、牛がよく食べます。
矮性ネピアグラスは、種子を

生産しないため、春から夏にかけて、挿し木のように茎を植え付けて草地を造成しますが、手植えで行うため、多大な労力となっていました。そこで、冬の

農閑期に、節間が伸長した茎を土中に埋め込む、簡易で省力的な草地造成法を開発しました。

11月下旬から12月にかけて、畝間を1畝として、約10センチの深さで畝引きを行い、節間伸長茎を並べて、覆土します。作業時間は、手作業で茎の移植を行う従来の方法では、1畝当たり81・6分だったのに対して、この冬季移植法では同28・6分と約65%の削減効果が得られました。

また、島原市の畜産研究部門では翌春の株の定着率が93・5%と良好な成績が得られました。

諫早市および五島市の現地農家圃場（ほじょう）でも、冬季移植法によって適正な栽植密度（1平方メートルあたり2・0株）を確保できたことから、簡易で省力的な草地造成法であることが実証されました。

（県農林技術開発センター畜産研究部門中小家畜・環境研究室 深川聡）